
Glay sky

雪梨@しあん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

「JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Gl a y s k y

【NZード】

N5580M

【作者名】

雪梨@しあん

【あらすじ】

苦手克服キャンペーン。

第一弾 「ファンタジー」

RPG風に村でのほのぼのした風景を描きたいと思つてます。

あくまで、思つてるだけ。

あれ、これってあらすじじゃなくね？

私はこの村しか知らない。

この村の向こう側にはどんな世界が広がっているのかもわからない。

気にならないわけじゃないけど、でもそんなに好奇心旺盛に知りたいわけでもない。

だって、今の私にはこの村が大きな「世界」なのだら。

Gl a y s k y

「おーい！アリア！」

木の上で灰色掛かった空を眺めながら少し肌寒い風をそよそよと受けていると、叫ぶように私の名前を呼ぶ声が下の方から聞こえてきた。

ふ、と声のする方を向くとそこには、手をぶんぶんと振りながらにこにこ笑う短髪が目に入ってきた。

「リク」

「降りてここよー！」

「ふふ、登つてこればいいじゃなし」

「む、俺が登れないの知つてそういうこというかー？」

意地悪く微笑みながらそう大きな声で告げれば、拗ねたようにそうも「も」咳く幼馴染のリクを見て、私はクツクツ笑いながら冗談だ、と木の上から地上へと降り立った。

「よく登れるなあ」

「簡単だよ、こんなの」

手に付いた木屑をぱんぱんと払いながら雨が降るかもな、なんてそんなことを考えてみると、リクは本当に感心したよつていつつ語った。

「だつて僕も何回か挑戦したけど、やつぱり無理だよ。高いとこ怖いし…」

「なつさけないなあ…男だろ?」

「そ、それは関係ないだろ! ? アリアだつて女の子じゃないか!」

「女が木を登つちゃいけないなんてきまりはないだろ?」

まあそんなことを言つてしまえば男が木を登らなくちゃいけない決まりもないんだろうけど、なんてことは言わないでおいた。

そんな私の考えに気付いているのかいないのか、リクははあ、とため息を一回吐いた後、空を見上げて雨が降りそうだね、と呟いた。

「…アリアはせ、この村を出てみたいと思わない?」

「思わないね」

「早いなあ、ちょっとは考えたの?」

「丁度さつき考えたところだからな」

シンクロした思考に流石幼馴染、なんて苦笑しながらそう返すと、リクはふーんと呟いた後、僕は今度お城に出ていた所謂「御触れ書」に行つてみよつと想つのだと告げた。

「…本気か?」

「僕は真剣さ」

「まあ、リクがそういうなら私は止めないけど…」

頑張つてこいよ、なんて肩を叩けば、リクは眉間にしわを寄せながらうんと笑つた。

じゃあまた明日、と大きく手を振りながら走り去つていくりクを見送りながら私は遂に曇天になつてしまつた空を仰ぎ見ながら深い息を吐いた。

いくな、なんてそんな無責任なこと言えないけどどんな危険が待つているのか分からぬ外界になんて行かなければいいのに、と表情を曇らせる。

ずっと私の後ろばかりを追つていた幼馴染とくつよりは弟みたいだつたりク。

泣き虫で、私に守られてばかりで、なのに一番に私の心配をする奴。

「…ばか」

行くなら、気持ちぐらい伝えてからいけ、馬鹿野郎。

とうとう降り始めた雨は、まるで私たちの心の中のようだ、なんて虫唾が走るような思考が頭をよぎつて、私こそばかじゃないのかと涙をこぼしながら笑つてみた。

【end】

伝えてくれたのならば、私も笑つて告げることができたの。

(後書き)

ファンタジー?どこが^p^
正直、スマンかつたww
ファンタジーは読まないし書かないしなので酷い出来ですねすみません。

次も苦手克服と称して何か書こうと思いつます…。

ここまで読んでくださつ、ありがとうございました!!

雪梨

20100714

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5580m/>

Glay sky

2010年10月9日07時10分発行